

2025(R7)年度までの放課後学習支援のあゆみ

～横浜すばいすとしての振り返りから、発信する放課後支援へ～

2025年度は、日常生活における学習意識を支える取組を6点について考えた。具体的な取組については、次年度のアドバイザー会議を通して、検討し、子供の実態に合わせて実践していく。

- (1) 子供はもとより、関わる周りの大人と目標を共有する
- (2) 大人の得意とすることで子供に関わる
- (3) 開発プログラムの導入と流れの工夫
- (4) 伝記などの「読み聞かせ」を通して憧れる人をつくる
- (5) アドバイザーから主任等への提案を通して「子供への関わり」を工夫する
- (6) ホームページを通して保護者への啓発

以下に具体的な取組を示す。

(1) 子供はもとより、関わる周りの大人と目標を共有する

放課後学習支援教室に来ている子供たちに指標を「目標」として紙に書いたものを提示し、学年や発達段階に合わせて、説明し、子供の実情に合わせて実践していく。アドバイザー会議で検討していくが、その素案とする。

今年の〇〇教室は、「自分たちでやりたいことを見つけ(課題を立て)、やりたいことを実現するために(その解決に向けて)、アドバイザーに相談したり本を読んだり年とて調べたり友達に相談したり(情報を集めたり話し合ったりしている)します。

〇〇教室の時間の中で、少しずつ取り組んでいくので、早くできることや実現することだけが目的ではありません。途中で、やりたいことが変わってもいいです。何でもアドバイザーに相談して下さい。もちろん、アドバイザーが来ない日もキッズに来たらチャレンジして下さい。

「やりたいこと」が見つからない人がいるかもしれません。大丈夫です!そのために、アドバイザーの先生が得意なこと、好きなこと、皆さんに紹介したいことをやっています。自分でやりたいことが見つかった人は、自分の「やりたいこと」に取り組んで下さい。

これまで、皆さんに紹介したコグトレパズルや知恵の輪などもアドバイザーとして紹介したかったことです。また、「やりたいこと」が宿題でもドリルでもいいですよ!

最後に「やりたいこと」は、自分にできそうなことから始めて下さい。だんだんレベルアップしていくはずですよ。レベルアップすると困ったことを解決する力が付いていきます。一緒に頑張りましょう!

これまでの取組の流れもあるので、アドバイザー自身に取組は任せていくこととします。

記録及びご褒美シールの「あしあと」も活用していきたい。

(2) 大人が得意とすることで子供に関わる

瀬谷区の学習意識の(4)の特徴から、学習意識と学習時間との関連から横浜市全体の平均値を超えるためには、高学年では、30分～1時間では不十分であるという結果が出ている。

本法人の放課後学習支援に対する考え方は、「教育の専門家が、1週間に一度30分～1時間程度の学習支援の場を創ることにより、「楽しい」を実感し、学習習慣が身についていくのではないか」という仮説の下、実施してきている。

しかし、学校の授業をしっかりと受けてきた子供たちは、放課後という時間に開放されたにもかかわらず、さらに「学習」が待ち受けていること自体が苦痛であることは、アドバイザー会議で話題になってきたことである。本法人の取り組みも学習時間に視点を充てた取り組みが難しいことは、これまでの大きな話題となってきた。

本法人の放課後学習支援に関する取り組みは、ほぼ週に一回の割合で実施されているが、その時間も参加人数が多いところは、二部制にするなど、決して、学習時間を確保しているという状況ではない。

2025年度に向けた放課後支援教室でのアドバイザー会議では、アドバイザー自身が得意とすること、子供たちに是非体験してほしいことを提供する方向で検討している。アドバイザー自身が「モデル(尊敬する人)」になることはもちろん、放課後の居場所であるキッズクラブスタッフにも、自らが得意とすることで子供たちに関わるよう声かけしていく。

(3) 開発プログラムのより一層の導入と流れの工夫

瀬谷区の学習意識の(3)の特徴から、放課後学習支援に参加している子供は、学年によらず、学習意識が高いという結果が出ている。毎年、放課後教室に参加している子供に対して実施している年度末アンケートでも「楽しかった」「少し楽しかった」を合わせると91%に達している。

「よかったと思うこと」に記載されている内容は、「先生が優しく教えてくれた」「音読ができるようになった」「宿題を教えてもらえた」や友達とのよい関わりがその要因と考えられる。また、宿題が終わっているので「ママに怒られない」などの安心感が「楽しい」につながっていると考えられる。

さらに、パズルやゲーム、工作やプログラミングなどの多彩なプログラムを提供することにより、目的意識を持って参加する様子が見られることも「楽しい」要因の一つと考えられる。

各家庭の保護者も自らが得意とすることでの関わりが重要である。モデルを見つけることにより、子供は「やってみたい」「いつか、そうなりたい」という課題をもつようになる。

開発プログラムで実践している「化石ハンターになろう」で考えてみる。

最初のタイトルは「化石が教えてくれるのは？」であった。知識をベースにしたタイトルであった。名古屋の科学館で化石に出会い、展示されたいのは「化石」だけでなく「化石ハンター」の持ち物や苦勞が展示されていた。正に、これだ!と気がついた。モデルになるものを提示すること。私自身が憧れたことを伝えよう!とタイトルを変えた。「化石ハンターになろう」である。

体験の流れも「化石って何?」から出発したプログラムだったが、「化石ハンターを知ってる?」から始めることとし、インディージョーンズも紹介した。化石ハンターの持ち物などを親子で話し合いながら進めるプログラムは、充実したものになった。

(4) 伝記などの「読み聞かせ」を通して憧れる人をつくる

「周りの人、学習意識に関する調査」から、「モデル(尊敬する人)」がいない子供が多いことが明らかになった。5.1.3の結果からも言えることだが、周りの人が多い子供ほど学習意識が高く、モデルとなる尊敬する人と出会っている確率が高い。コロナ禍を通して、多くの人との出会いや多世代交流、地域行事等に参加することが少なくなっている実態がある。

また、共働き世帯が増加するなど、社会全体の流れが、未来を担う子供を置き去りにしている状況がある。放課後の周りの人のかかわりの中に伝記などの「読み聞かせ」を導入することにより、本の中での出会いも多くしてはどうかと考えた。

読み聞かせボランティアなどに声をかけ、お願いしていく試みにもチャレンジしたい。

(5) アドバイザーから主任等への提案を通して「子供への関わり」を工夫する

放課後の居場所であるキッズクラブスタッフの声にも、たくさんの子供たちへの対応、個別に対応しなければならない子供への対応等、時間的にも人数的にも逼迫している状況が伝えられている。そんな中、「代弁する余裕がない」「話を聴く余裕がない」などの声がある。

スタッフ同士での役割分担や環境設定などを提案していく。

2024 年度に放課後学習支援に関わっているスタッフに「学習支援で困っていること」を問うてきた。その一つ一つに答えを出すことは難しいが、方向性を示していくことはできると考える。具体的な方向性を次に示す。

<子供から質問されたら「一緒に考えよう」>

- ①キッズの学習時間内でのスタッフからの勉強（宿題）への指導については、保護者に「お知らせ」を出して、教えられない旨を伝えているにもかかわらず、区役所にまで苦情の連絡をする保護者がいる。
- ②放課後支援教室以外で夜に残っている子どもに宿題を教えると言われるが、今は教え方が違うので教えることはできないと対応するが、これでよいのか悩みます
- ③親の思いと子供の思いの温度差（放課後学習支援教室では、申込時に確認）
- ④宿題やドリルなどの勉強は、スタッフが教えないことが伝えられているので、特に困っていることはありません。計算や漢字が違っているのを見たときには「ここ見直してみて」と声かけはしています。
- ⑤宿題を見てと言われたとき、教えてしまっているのでしょうか？
- ⑥放課後学習支援教室の時間に子供から質問をされたら答えてもいいのか悩みます。

<子供の学習意欲がない→子供に無理強いをせずスタッフのできることを>

- ①平日 30 分間、土曜日や学校休業日 1 時間の学習時間が苦痛で、何もせずにボーッとしているか、寝てしまう子供がいる。
- ②学校の宿題だけではなく、公文や塾の宿題をやっていて、時間内終わらずに遊びの時間内でも必死に取り組んでいるが、結局、終わらず号泣している子供がいる。
- ③自学だと言い張って、紙にひたすら落書きしている子供がいる。

<子供に教えてもらう姿勢で、ゆっくり、じっくりと過ごす放課後に>

- ①自分が習った計算のやり方と子供たちが習っているやり方が違い、教え方が分かりません。保護者さん世代とも計算の仕方が違うと話題になったことがあります。
- ②「私は」「ぼくは」「～を」などの宿題が出たときに、なぜ文字と読み方が違うのか、聞かれて困りました。
- ③漢字が分からないと言われたとき、どのようにして教えたらよいのか？
- ④1 年生のカタカナの勉強で見本と全く同じように書きたいと何度も消しては書くをくり返し、泣きそうになる子に、どう支援したらよいのか
- ⑤勉強に興味をもってもらう方法って有りますか？
- ⑥人の話を聞く、椅子に座って聞く態度（落ち着きがない子への対応）は、どうしたらよいですか？
- ⑦3 桁÷2 桁の計算のやり方に苦戦している子がいて、分かり易い説明。
- ⑧数字や等号、記号など、きちんと丁寧に書くことを伝えることが難しい。
- ⑨漢字の書き順、偏と隣の教え方が難しい
- ⑩宿題、プリントなど、名前をきちんと書いてもらいたい

①教え方の問題が一番困ります。せめて、教科書の配布はないのでしょうか？数年前、放課後支援教室から上巻だけは配付されましたが、それっきりです。現状、子供に見せてもらう等しています。

<悪い行動は、静かな言葉で、注意を繰り返す>

- ①元気すぎる子が多すぎて、学習しようとする姿勢がない子が多く、わくわく区分で学習支援の時間だけキッズに来る子(比較的真面目に勉強しようとする意欲のある子供)が途中から参加しなくなる傾向があります。せっかく申し込んでくれたのに残念です。
- ②慣れることは悪いことではないと思うが、けじめの付け方をどう教えてよいのか悩むところです。態度の悪い生徒への注意、見守りのみで口出ししない方がいいのでしょうか？
- ③口では嫌がっても、最終的には一生懸命取り組んでかわいい。エンジンスタートの早くなる声かけができればと思う
- ④帰る前に自身で机と椅子をそろえさせる。○付けが終わるまで席を立たないようにする。
- ⑤誰が何をできないなど、まとめることができたらいいかな？と思うが、難しいかな？
- ⑥もう少し、先生方の参加、学習支援への考え方を改善してほしい。
- ⑦楽しいのはいいのですが、おしゃべりが多いのが少し難点。
おしゃべりをしている子の注意を、どのくらいの程度までしたらよいのでしょうか？^注どのくらいの程度まで許したらいいのかということ
- ⑧声かけした方がいい子ども以外に「声かけしないで」と言う子もいて、自分の接し方も考えてしまいました。学校の教室と違い、開放された雰囲気作りの必要性を感じました。

アドバイザーを通して、キッズ等のスタッフの困りごとに寄り添い、共に、よりよい「教育的関わり」について、考えていきたい。

(6) ホームページを通して保護者への啓発

保護者には、スグールでの「放課後の子供たちへの教育的関わりについて」の配信により、一人でも多くの保護者に関心を持って頂き、本法人のホームページにもその関わりを掲載していこうと考えている。

「子は親の鏡」の具体的関わりを提案していく

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

「子供はスポンジのように親の言葉や行動の全てを吸収し、学びます。

×「なぜ、こんなことができないのだ！」

→「まずは、これができたね。次は、なににチャレンジしようか？」

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

「子供は、敵意や憎しみの中で育つと、精神が不安定になります。子供によっては、不安から逃れるために乱暴になる子もいます。

×「そんなことしたら、危ないじゃないか。やめなさい！」

→「こすれば、きみは安全だ」

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「子供は、怖いことが大好きです。怖い話、怖い映画にわくわくドキドキ胸をときめかせます。お化けごっこも大好きです。

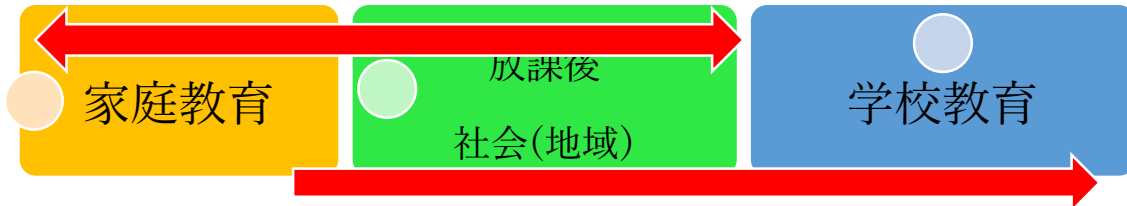
×「困ったことや分からないことは、何でも言えばいいのに!どうして質問しないの?」

→「どうしたの?私や周りの人が守ってくれるし、相談にのってくれるよ」

2024(R6)年度 「学習支援」から「学習体験を創る」支援へ

☆取組1:「経験と勘」から「EBPM」への調査研究

- 第2学年の非認知能力は、横浜市平均に優るとも劣らずである
- 学力を支える非認知能力を放課後学習支援の中でどう支えるかを検討する



- Well-Being を目指し、アドバイザーと子どもの双方が楽しいこと
- 楽しい学習体験は、次の学習体験へ

☆取組2:学習体験アドバイザーは「コーディネーター」の役目

- Ⅰ 教材を検討し多様な工夫
 - (1)宿題、音読、プリント、はまっこドリル、CD での一斉掛け算九九の暗唱、簡単数字パズルや迷路パズル、シール、タブレット、本の読み聞かせ、読書感想文のアドバイス、プリントは、医者が考案したコグトレパズルも活用
 - (2)鉛筆の持ち方や線の引き方のアドバイス、言葉遊びの問題
 - (3)車を作って動かしてみよう
 - (4)書写や漢字、早口言葉、竹笛づくりやシャボン玉、スライム、昔あそびにフライングディスクで、ディスクゴルフなどを図工(粘土工作)・かるたゲーム・都道府県カルタ、瀬谷歴史カルタ、ことわざカルタ、反対言葉カード、シャボン玉作り・身体運動(バランス崩し・身体ゲーム)等、クロスワードやナンプレのプリント、韓国朝鮮のユンノリという双六をやったり、フライングカップを作って飛ばしたり、子どもの関心に合わせた活動
 - (5)集中力と向上心を高め日本文化に触れるために百人一首
 - (6)今日の豆知識としてクイズ形式の問題
 - (7)プログラミング
 - (8)「チャレンジのあしあと」への記録

☆取組3:学習体験アドバイザーは「年間計画」を立案

- Ⅰ 『目標及びテーマ』
 - (1)学校の方針、事業所であるキッズクラブ等の方針を受けて『目標及びテーマ』を設定する
 - (2)Well-Being を目指し、アドバイザーが楽しいこと
 - (3)Well-Being を目指し、子どもが楽しいこと

2 『昨年実績』

(1)子どもの実態を踏まえた昨年の実績を振り返り、年間計画を立案していく

3 『月日』

(1)アドバイザーが来る曜日を基本として、スタッフと相談しながら、実施予定日を入れる

(2)長期休業中は、夏休みの自由研究や読書感想文の相談等、特別日程で実施する

(3)土曜日には、長い時間が確保できることから開発プログラムやアドバイザープログラムを実施する

(4)親子で実施できるプログラムは、長期休業中や土曜日に実施する

4 「学習体験内容」には、テーマに沿った内容を記載

(1)「学級経営案」のイメージを持ち、年間の学習を楽しみながらデザインする

(2)年間計画は、順次年間実績として書き替える

・7月、12月は、小計を出し、3月には年間実績が出るようにする

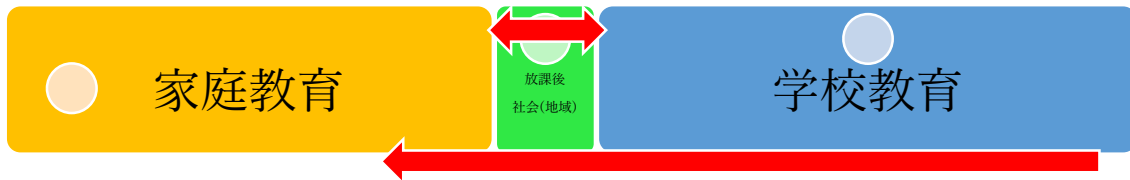
☆取組 6:教材研究を進めアドバイザーのよさを生かす

- 1 非認知能力「コグトレ」を紹介することにより、アドバイザーは使いこなし、学習体験プログラムに盛り込んできた。これは、教育現場を経験したアドバイザーの強みである
- 2 現在「化石プログラム」を予定し、アドバイザーが学習体験として使えるように教材を準備している
- 3 既に「シャボン玉」「ヒヤシンスの水栽培」「スズムシを飼おう」なども教材化されている

☆取組8:法人や主任に「見通し」の意図を伝える場

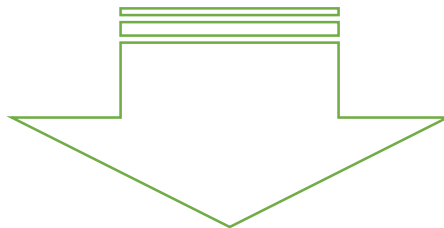
- 1 アドバイザーが「開発プログラム」を実施しようと考えても実施できなかった
→法人や主任への声かけが徹底しなかった。次年度に向けた検討が必要
- 2 昨年も実施した「区校長会」での周知
→多様なプログラム展開を校長先生方にも発信し、放課後のキッズクラブ等に顔を出していただけるよう関心を高める

2023(R5)年度 「学習支援」から「学習体験を創る」支援へ



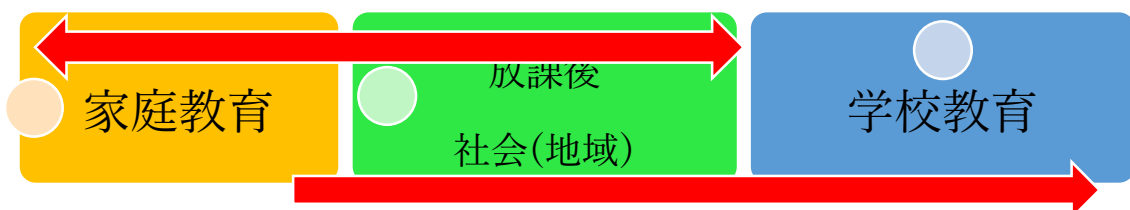
☆提案 0: 学校教育を補完する「放課後学習支援」から出発

- かけ算九九の習得を柱として2年生あたりから宿題、ドリル学習を中心に実施
- 計算力がつき、達成感も見られ、自信がついた!
- 「〇〇教室」に来て、アドバイザーと楽しく話しをしながら、学習習慣もついてきた!
しかし…
- 申込を取ると保護者の意向が強ク「来たくないのに来ている」子どもが見られた
- 来たくない理由は、学校で勉強した後に、また、勉強するのはイヤ!!
- 学習意欲の壁



☆提案 1: 「学習支援」から「学習体験を創る」放課後支援へ

- 新たな学習支援とは…アドバイザー等が考える学習経験を積み重ね、学校教育につなげる
- 「アドバイザーが創造したプログラム」と「開発プログラム」等で構成する



- Well-Being を目指し、アドバイザーと子どもの双方が楽しいこと
- 楽しい学習経験は、次の学習経験へ

一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室の取組（ある自治体の例を参考に作成）

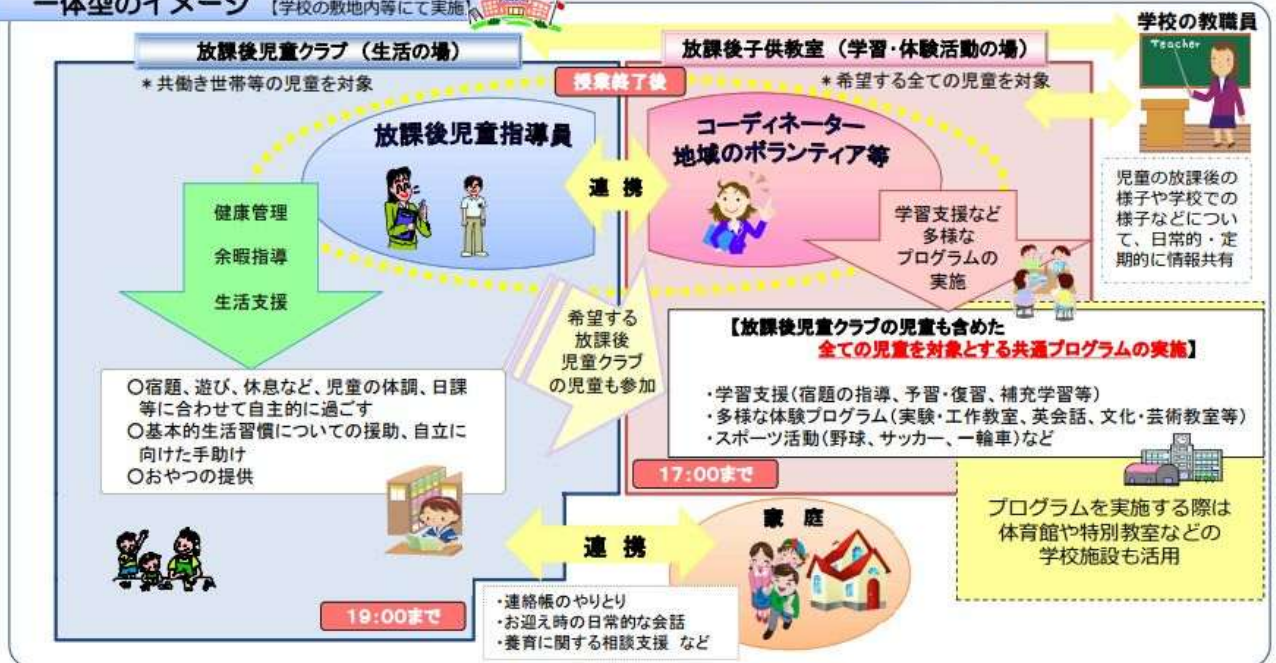
一体型とは

- 共働き家庭等も含めた全ての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施
- 活動場所は学校の余裕教室や特別教室（家庭科室や理科室、ランチルーム等）、学校敷地内の専用施設等の安心・安全な活動場所を活用

一体型のイメージ

【学校の敷地内等にて実施】

※放課後子供教室については、各地域の実情等に応じて開催



19

☆提案2: 学習体験アドバイザーは「コーディネーター」の役目

1 教材を検討し多様な工夫

- (1) 宿題、音読、プリント、はまっこドリル、CD での一斉掛け算九九の暗唱、簡単数字パズルや迷路パズル、シール、タブレット、本の読み聞かせ、読書感想文のアドバイス、プリントは、医者が考案したコグトレパズルも活用
- (2) 鉛筆の持ち方や線の引き方のアドバイス、言葉遊びの問題
- (3) 車を作って動かしてみよう
- (4) 書写や漢字、早口言葉、竹笛づくりやシャボン玉、スライム、昔あそびにフライングディスクで、ディスクゴルフなどを図工（粘土工作）・かるたゲーム・都道府県カルタ、瀬谷歴史カルタ、ことわざカルタ、反対言葉カード、シャボン玉作り・身体運動（バランス崩し・身体ゲーム）等、クロスワードやナンプレのプリント、韓国朝鮮のユンノリという双六をやったり、フライングカップを作って飛ばしたり、子どもの関心に合わせた活動
- (5) 集中力と向上心を高め日本文化に触れるために百人一首
- (6) 今日の豆知識としてクイズ形式の問題
- (7) プログラミング
- (8) 「チャレンジのあしあと」への記録

2 横浜すばいす開発プログラム

- (1)ここ数年のコロナ禍にあっても放課後学習支援のための多様なプログラムを開発
- (2)2021年度に「防災」と「食育」で ONLINE プログラムを開発し、好評
- (3)2022 年度の実施に当たっては、事前に希望を取り、計画的に実施
- (4)アドバイザーと主任が相談し、子どもに必要なプログラムを選択
- (5)アドバイザーと同じく「ナナメの関係」を構築するため、3回セットで実施
- (6)ONLINE プログラム、対面プログラム共に30～40分程度
- (7)対面プログラムは1～2 時間程度も可能
- (8)親子プログラムも好評!
- (9)申込順に講師と連絡を取って、日程調整をし、最終決定

☆提案3:学習体験アドバイザーは「年間計画」を立案(次頁)

1 『目標及びテーマ』

- (1)学校の方針、事業所であるキッズクラブ等の方針を受けて『目標及びテーマ』を設定する
- (2)Well-Being を目指し、アドバイザーが楽しいこと
- (3)Well-Being を目指し、子どもが楽しいこと

2 『昨年実績』

- (1)子どもの実態を踏まえた昨年の実績を振り返り、年間計画を立案していく

3 『月日』

- (1)アドバイザーが来る曜日を基本として、スタッフと相談しながら、実施予定日を入れる
- (2)長期休業中は、夏休みの自由研究や読書感想文の相談等、特別日程で実施する
- (3)土曜日には、長い時間が確保できることから開発プログラムやアドバイザープログラムを実施する
- (4)親子で実施できるプログラムは、長期休業中や土曜日に実施する

4 「学習体験内容」には、テーマに沿った内容を記載

- (1)「学級経営案」のイメージを持ち、年間の学習を楽しみながらデザインする
- (2)年間計画は、順次年間実績として書き替える
 - ・参加実績(当日の延べ人数)
 - ・実際の概要
 - ・アドバイザーが参加したら「○」
 - ・開発プログラム等、講師が参加したら「講①」①印は、その他アシスタントも含む人数
 - ・スタッフが参加したら「ス①」
 - ・学生ボランティアが参加したら「学」
 - ・地域ボランティアが参加したら「ボ」
 - ・7月、12月は、小計を出し、3月には年間実績が出るようにする

☆提案4:「開発プログラム」を実施しながら修正

I ONLINE プログラム、対面プログラムの共通課題と改善策

- (1) プログラムの概要が見えずらく、アドバイザーが計画を立てづらい
→講師の思いを「講座の意図」としてA4裏表程度の資料を用意する
(参考:放課後学習体験におけるヘアアレンジ講座)
- (2) 3回と限定せず、2回実施も可能にして欲しい
→「講座の意図」を元に、2回以上の実施を可とする
講師とのふれあひも、「ナナメの関係づくり」と位置付けているため多ければ多いほどよい
- (3) 内容が明確でなければ、年間計画が立てられない
→実施概要としてA4表一枚程度の概要を明確にする
→子どもは、歌を体で覚え、楽しむ。どの概要にもできるだけ「テーマソング」を入れる
(参考:キッズ ONLINE 横浜すぱいす「食育の時間」基礎編・応用編 概要)
- (4) 持続可能な費用を明確にし、材料代等が明確ではない
→香楽では、創った香りの「お持ち帰り用小瓶」の価格が500円弱で香の具は5つの香りを使っているが、一本2500円相当である。
材料費として、親子香楽1回につき香料代 5,000 円、小瓶(用紙代含む) 500 円/1 人
放課後香学では、香料代(用紙代含む) 3 回で 1000 円
として明記することとした。
- (5) 対面プログラムでは、交通費としての 2,000 円/1 回としたが、交通費が明確ではない
→プログラミングでは、学生が3~5 人来て、一人一人の子供に向き合うにもかかわらず、2,000 円??
そこで、1,000 円/一人とする。
→香楽では、主たる講師 2,000 円、アシスタント 1,000 円の交通費を払う
→その他対面プログラムでは、主たる講師 2,000 円、アシスタント 1,000 円の交通費を払う
- (6) ONLINE プログラム費用
→3 回の実施とは限らないため、原則をつくる
→プログラム実施活動費として 1,000 円/1 回×実施回数(事前打ち合わせも含む)
- (7) 支払いが明確になっていない
→ONLINE プログラム事前打ち合わせ資料に「振り込み先銀行口座」あるいは「横浜すぱいす受取」を明記する
→対面プログラムは、「振り込み先銀行口座」あるいは「当日受取」を明記する

I ONLINE プログラムの課題と改善策

- (1) ZOOM の事前調整(すぱいす担当が事前・当日にキッズクラブのpc調整、プロジェクター貸し出し)
- (2) 講師とスタッフの役割分担を明確にする(事前打ち合わせプリントに明記)

☆提案5:「開発プログラム」のさらなる開発

- 1 アドバイザープログラムの充実が「開発プログラム」への可能性
対面プログラムの「図工」は、アドバイザープログラムが発展したプログラムである
今後もユニークなアドバイザープログラムは、できる範囲でほかのキッズで実施する「開発プログラム」に変身することが可能である
- 2 介護等で週に一回出られないアドバイザーも多くいるため、ONLINE プログラムを勧め、Well-Being となるよう多様な ONLINE プログラムとなるようにする

☆提案 6:教材研究を進めアドバイザーを「講師」に育てる

- 1 非認知能力「コグトレ」を紹介することにより、アドバイザーは使いこなし、学習体験プログラムに盛り込んできた。これは、教育現場を経験したアドバイザー の強みである
- 2 現在「化石プログラム」を予定し、アドバイザーが学習体験として使えるように教材を準備している
- 3 既に「シャボン玉」「ヒヤシンスの水栽培」「スズムシを飼おう」なども教材化されている

☆提案 7:アシスタントから「講師」に育てる

- 1 プログラミングでは、キッズに所属する学生が「講師」に育った
- 2 香楽では、講師が実施するときに意図的にアシスタントとして2人に声をかけ、アシスタントだけでも実施できた
- 3 多くのプログラムで「講師」を育てる

☆提案8:法人や主任に「見通し」の意図を伝える場

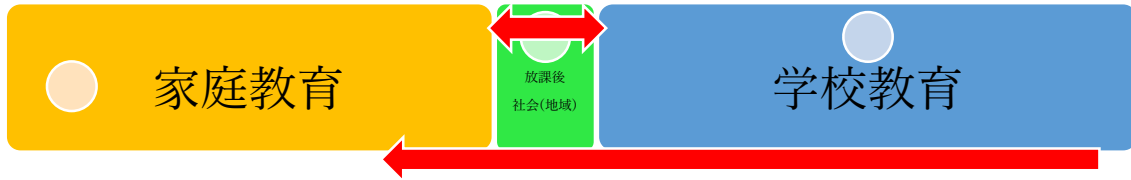
- 1 アドバイザーが「開発プログラム」を実施しようと考えても実施できなかった
→5月辺りに区役所から瀬谷区内の法人や主任に声をかけていただき、ここにまとめた「見通し」を横浜すばいすのまとめとして説明し、協力していただける場を区役所会議室を使って実施する
- 2 昨年も実施した「区校長会」での周知
→多様なプログラム展開を校長先生方にも発信し、放課後のキッズクラブ棟に顔を出していただけるよう関心を高める
→教職員からもご意見をいただき、よりよいプログラムとなるようにする。
→教育課程内でのプログラムとしてもPRする

☆提案9:区内「放課後の子どもたち」のプログラム交換会を実施

- 1 横浜すばいすの取組の発信により、区内の子どもたちの放課後が豊かになるように
- 2 横浜すばいす以外の地域プログラムを吸収することにより、「開発プログラム」に広がりや深まりが出る
- 3 年に1回でもよいのでA4版1枚の資料を持ち寄り、区役所での「プログラム情報交換会」を実施する。

2022(R4)年度 学習体験をプログラムで豊かにする

～7年間の横浜すばいすとしての振り返りから、発信する放課後支援へ～



○学校教育を補完するため、かけ算九九の習得を柱として2年生あたりから宿題、ドリル学習を中心に実施

- 申込を取ると保護者の意向が強く「来たくないのに来ている」子どもが見られた
- 来たくない理由は、学校で勉強した後に、また、勉強するのはイヤ!!



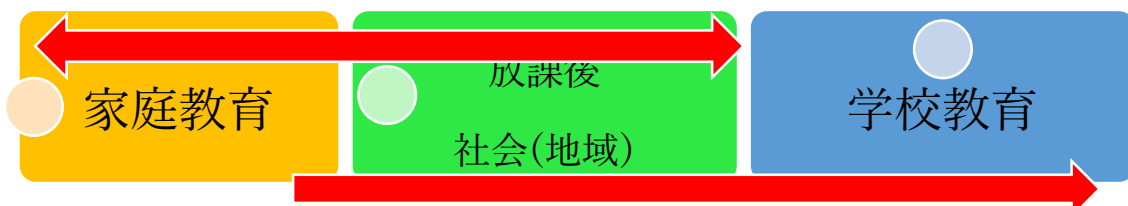
○教材を検討し多様な工夫

- ・宿題、音読、プリント、はまっこだりル、CDでの一斉掛け算九九の暗唱、簡単数字パズルや迷路パズル、シール、タブレット、本の読み聞かせ、読書感想文のアドバイス、プリントは、医者が考案したコグトレパズルも活用
- ・鉛筆の持ち方や線の引き方のアドバイス、言葉遊びの問題
- ・車を作って動かしてみよう
- ・書写や漢字、早口言葉、竹笛づくりやシャボン玉、スライム、昔あそびにフライングディスクで、ディスクゴルフなどを
 図工(粘土工作)・かるたゲーム・都道府県カルタ、瀬谷歴史カルタ、ことわざカルタ、反対言葉カード、シャボン玉作り・身体運動(バランス崩し・身体ゲーム)等、クロスワードやナンプレのプリント、韓国朝鮮のユンノリという双六をやったり、フライングカップを作って飛ばしたり、子どもの関心に合わせた活動
- ・集中力と向上心を高め日本文化に触れるために百人一首
- ・今日の豆知識としてクイズ形式の問題
- ・プログラミング
- ・「チャレンジのあしあと」への記録

★生き方に学び、生き方を創る放課後支援

今後の学習支援・・・アドバイザー等の学習経験を学習支援と捉え学校教育につなげる

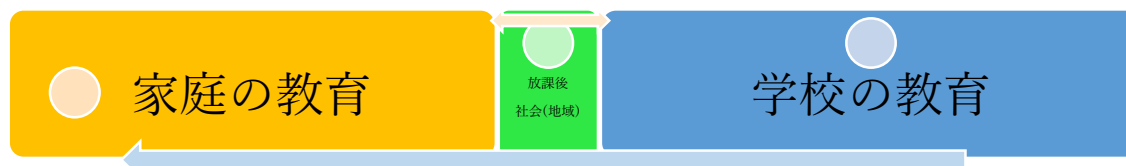
「宿題等の自主学習」と「アドバイザーが用意したプログラム」で構成する



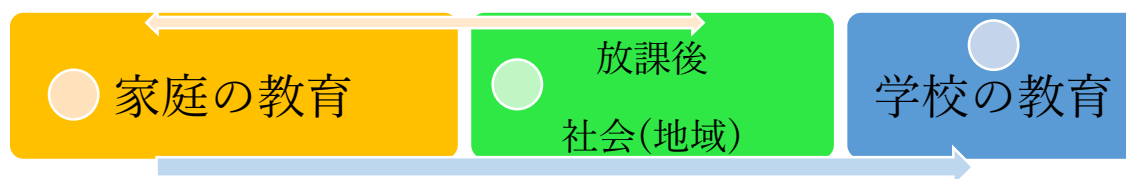
2021(R3)年度(コロナ2)「逆転の発想」

★家庭教育を補完し、学校教育の土台をつくる放課後支援

従来型・・・学校教育から家庭教育につなぐ役割としての放課後がある。



逆転の発想・・・家庭を含めた社会での学習・体験を放課後で積み重ね学校教育につなげる。



・家庭教育をさらに放課後で支援したい。

「放課後で体験を重ね」家庭教育を補完する学習支援の取組

子どもたちが保護者や先生以外の「斜めの関係のお助けマン」と継続的に関わることにより

- ①社会性を養い、コミュニケーション能力を育む体験
- ②達成感や自己有用感を味わうことにより、将来の夢や希望を育む体験
- ③「わかる」「楽しい」を感じるにより自己肯定感を育み、学習意欲や習慣を体験

※「斜めの関係」の学習アドバイザーが家庭ですべき体験学習を補う放課後学習支援

・一族郎党(家庭を含めた地域社会全体)の発想による支援

常時のお助けマン+「ピンポイントお助け隊」による支援

・学習プログラムを通した放課後の子どもと大人とのふれあい

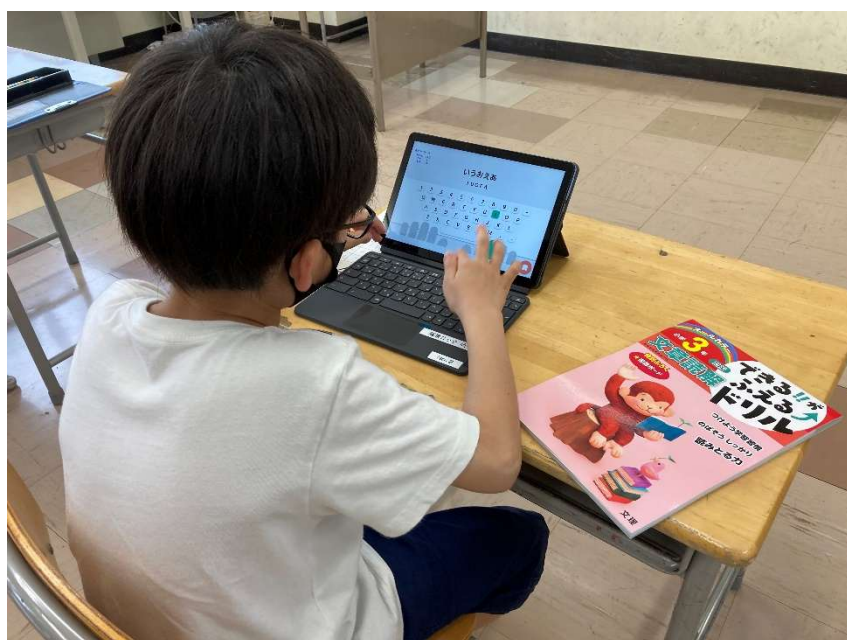
・各区の特性に応じた支援方向の細分化

瀬谷区・・・「学力を支える前の学習意欲、学習習慣」

保土ヶ谷区・・・「家庭教育の補完、家庭の体験学習」

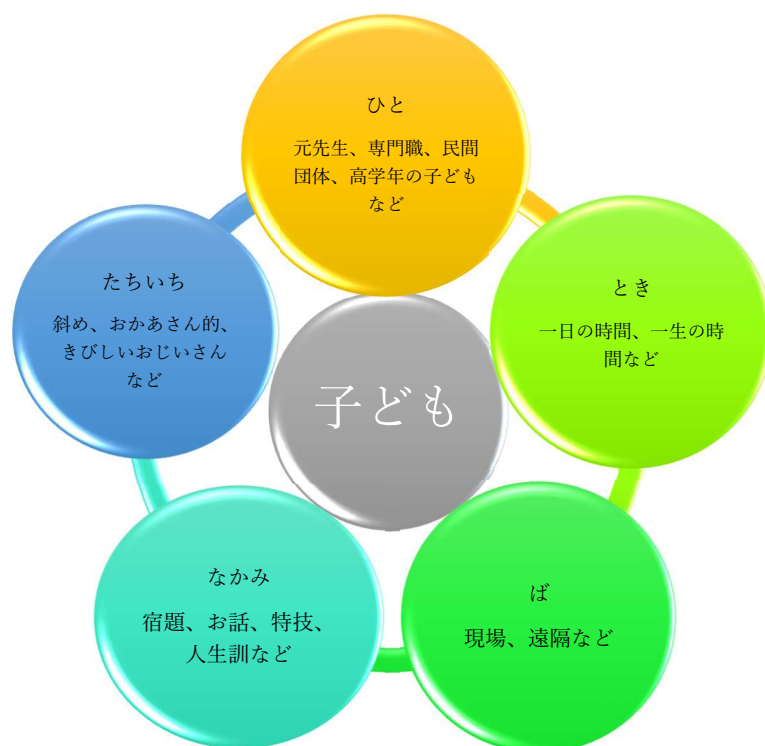
・放課後及び支援を行う人、それぞれの放課後(朝、昼、三時、夕方)の存在

・支援(知識の習得、学びあい、支援の交換)の意味の変容



2020(R2)年度(コロナ)「アドバイザー会議の必要」

★放課後支援の方向の模索とアドバイザーの声の集約



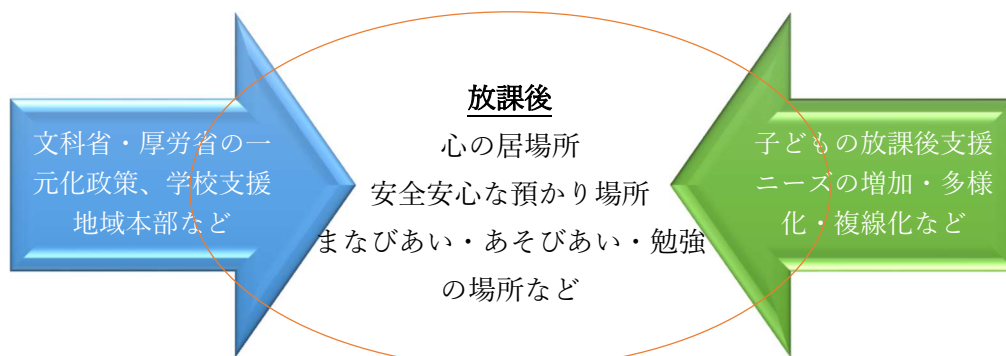
・支援の要素の輪を子どもにより近づける。

- ・支援者を社会から孤立させない。地域資源として、多くの支援者の生き方に子どもが触れる機会へ
- ・教師の放課後（自身の住む「まち」の放課後）への着目、社会関係資本高揚への機運へ
- ・学習方法の多様化、アドバイザーの特徴からプログラムの多様化への着目
- ・放課後の見方・考え方の変容、「逆転の発想」として放課後から学校へ
- ・コロナ渦の中、オンラインによるプログラムの着目と試行
- ・「支援を行う人の放課後が、あっていい。」という発想から、支援者も充実する放課後へ
一日を時間軸と考えた時の放課後・・・仕事の休みの日。休憩時間。朝の出勤前の時間。
人生を時間軸で考えた時の放課後・・・仕事のリタイヤ後の時間。仕事をしながらの合間の時間。仕事としての時
間。
- ・「放課後に行くことは全て学習に結びつく。」という発想か
ら、教育課程に特化しなくていい支援内容へ



2019(R1)年度「教材等の進化」

- ・★放課後支援での教材は何か
- ・「よこはまユース」による中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関する調査考察から、社会体験とコミュニケーション、社交性、挑戦意欲、やり抜く力との関連付けへ
- ・「放課後児童クラブ」と「放課後子供教室」との一体化による連携の方向性、生活の居場所と健全育成と学習機会の相補関係の創造へ



・政策の変化を子どもの放課後支援の現場のニーズに使う。

一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室の取組（ある自治体の例を参考に作成）

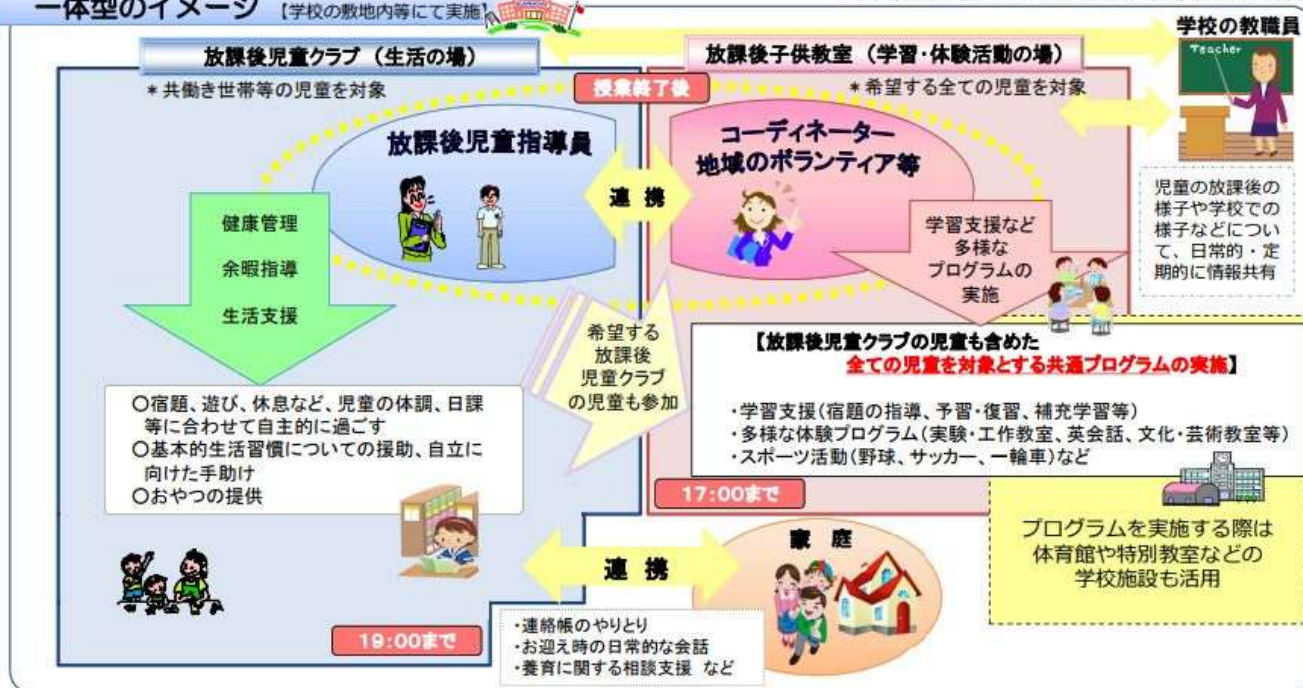
一体型とは

- 共働き家庭等も含めた全ての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施
- 活動場所は学校の余裕教室や特別教室（家庭科室や理科室、ランチルーム等）、学校敷地内の専用施設等の安心・安全な活動場所を活用

一体型のイメージ

【学校の敷地内等にて実施】

※放課後子供教室については、各地域の実情等に応じて開催



2018(H30)年度「キッズクラブの拡大」

★学校、保護者、子ども、スタッフアンケートからの模索

- ・放課後における学習と支援(なんでも学びにつながる、居るだけでも支援)の内容の変容
- ・あしあとによるまとめ(保護者の要望)から外遊びも支援内容へ
- ・アドバイザーの特徴をプログラムの多様性へつなげたい。
- ・子どもお助けマン(高学年による低学年支援へのサポート)の育成へ

広報よこばま 2018(平成30)年 8月号 / 瀬谷区版

子どもたちの「学びたい」を応援します!

●区役所子ども家庭課 0367-5867 0367-2943

瀬谷区では、小・中学生に対してさまざまな形で「学習支援」を実施しています。子どもたちが楽しみながら学習する中で、苦手な部分を克服し学習習慣や学習意欲を身につけていくことが大切だと考えています。また、学習支援ボランティアの養成講座も実施しています。地域の子どもたちのためにお手伝いいただける人は、ぜひご参加ください。

「学習支援」ってなに?
「わかった」「できた」という経験を通して、学習の楽しさを身に覚え、学習の意欲や習慣を身につけるためにやっています。

誰が教えてくれるの?
教員のOB・OGなど地域のボランティアの人がやさしく教えてくれます。

どんなことをやっているの?
計算や漢字のプリント、読書のわからないところを教えるもったり、質問会場ことにいる人などをやっている。

参加した児童の保護者の声 (平成29年度 振り返りアンケートより)

- 支援のみんなと勉強できて楽しかったです。
- 地域のボランティアの方にすぐ質問できるのがよかったです。
- たくさんプリントをやって、がんばったよと言っていました。
- 週に1回、短時間でちょうどよかったです。
- 近所や地域のボランティアの方が見てくれると、刺激になります。

会場	実施頻度/時間	対象学年	問合せ
相沢小学校	毎週水 放課後	各校ごとに異なります	放課後キッズクラブ 0304-6335
阿久和小学校	毎週木 放課後		放課後キッズクラブ 0365-3306
上瀬谷小学校	毎週月 放課後		放課後キッズクラブ 0301-0395
瀬谷小学校	毎週水 放課後		放課後キッズクラブ 0301-3140
瀬谷さくら小学校	毎週火 他 授業中		学校運営協議会 0303-0803
大門小学校	毎週月 放課後		放課後キッズクラブ 0303-1892
藤小学校	毎週水 放課後		放課後キッズクラブ 0365-0636
二つ橋小学校	毎週水 放課後		放課後キッズクラブ 0301-4693
南瀬谷小学校	毎週水 放課後		学校運営協議会 0301-0101

資料: いっせいで参加費無料! 詳しくは各担当まで!

平成30年度 瀬谷区における小・中学生の学習支援事業の概要

平成30年10月5日 瀬谷区子ども家庭課

瀬谷区の子どもの現状や課題

背景
瀬谷区では世帯の世帯数を抱えている世帯が多く、支援が必要な児童が増えています。
・生活保護率(人口割合)3.3%(市内3位)
・生保世帯の子家庭割合11.6%(市内1位)
・ひとり親世帯2.4%(市内1位)
・失業が必要児童(人口比)0.41%(市内1位)

課題
①生活困難世帯の子どもの学習支援をさらに充実させ、世帯の連鎖を防ぐ必要がある。
②小学生のうちから、将来の夢や希望をもてるよう、身近な場所で幅広い児童を対象とした学習支援が必要。

瀬谷区の子どもの現状や課題

I 「希望する全ての小・中学生」を対象とした事業

小学生 ①生きる力を育む小学生の学習支援事業(別紙)
区自主企画事業 (28年度~)
【学習支援】
内容: 学習意欲や学習習慣を身につけるための、放課後の学習支援(小学校の空き教室等)、週1回程度実施
対象: 希望するすべての小学生
実施校: [28年度]8校(南小・二つ橋小・南瀬谷小)でモデル実施
[29年度]6校(上瀬谷、上瀬谷小、大門小、阿久和小)で実施
[30年度]12校(南沢小・瀬谷小)で実施

小・中学生 ②ほかほかプラザを拠点とした学習支援事業
高学・障害支援
区環境共生都市推進事業 (26年12月~)
内容: 地域における支え合いの一環として学習支援を、週1回程度実施
対象: 主に阿久和南部地域の小・中学生 (20名程度)

II 「生活困難世帯等の子どもたち」を対象とした事業

中学生 ③寄り添い型学習支援事業
区配事業(健康福祉局) (28年度~) 生活支援課
内容: ①生活保護・生活困難世帯の子どもの高校進学に向けた学習支援(週2回程度実施)
②高校生への定着支援(週1回実施)
対象: ①生活保護・生活困難世帯の中学生 継続30人
②寄り添い型学習支援事業を利用し高校に進学した生徒

小・中学生 ④寄り添い型学習支援事業(竹村の丘)
区配事業(子ども青少年局) (22年11月~) 子ども家庭支援課
内容: 養育環境に課題がある子どもの生活スキル向上・学習支援及び学校支援
家庭訪問の徹底、週6日実施
対象: 支援が必要な小・中学生と保護者(小・中学生50名程度)

小学生 ⑤ひとり親家庭児童の生活・学習支援モデル事業
区配事業(子ども青少年局) (29年度~)
内容: ひとり親家庭の子どもの生活習慣の習得支援や学習支援と食事の提供
対象: 支援が必要なひとり親家庭の小学生(場合により、4歳~中学生のようた、児など)

III 「学習支援者」を育成する事業

⑥学習支援ボランティア養成事業
区自主企画事業 (28年度~) 生活支援課
内容: 地域で学習支援を行う人材を確保・育成するためのボランティア養成講座を開催
[30年度]9月に1コース(3回)実施
対象: 学習支援に関心のある方 (参加者20名程度)

IV 学習支援を進めるためのネットワークづくり

子ども家庭支援課 学校連携・子ども担当
・区内で学習支援を行っている団体や区社会福祉協議会、区役所等によるネットワーク
・団体間の情報共有や課題解決に向けた意見交換 等
「瀬谷区学習支援ネットワーク会議」の開催
平成27年度よりネットワーク会議を開催(2回/年)

V 「地域」における学習支援

瀬谷さくら小学校 学校運営協議会(さくらの子応援部会)
算数補充学習・算数サポートやクラブ支援等

阿久和北部みまもりの家
宿題などの学習支援

子どもたちが、楽しんで学びに集中し、読書の楽しさを感じて、学習意欲や習慣を身につけるよう心がけています。(ほかほかプラザより)

関心がある人は?

学習支援の意味、それらの必要知識、心構えを学ぶことができます。

2017(H29)年度 キッズクラブや学校運営協議会との連携

★キッズクラブや学校運営協議会での取組の可能性の広がり

・放課後支援の目的の明確化

①「社会性」を養う。「コミュニケーション能力」を育む。②将来の夢や希望を育む。③「自己肯定感」を育み学習意欲や学習習慣を身に付ける。

・三つの目標と家庭教育・社会教育もふまえた支援目標への関連づけの強化へ

・多様なプログラムの中での学校、キッズクラブ、家庭、すぱいすとの学習支援の連携・協働と実施プログラムの広がり(お弁当コンクールなど)

教材・ドリル等の焦点化

親子連絡帳による保護者との家庭学習連携

・アドバイザーの個性、専門性を生かした支援内容と多様な職能を持つアドバイザーの支援と組織をつなぐサポートへ



2016(H28)年度 瀬谷区放課後支援モデル3校出発

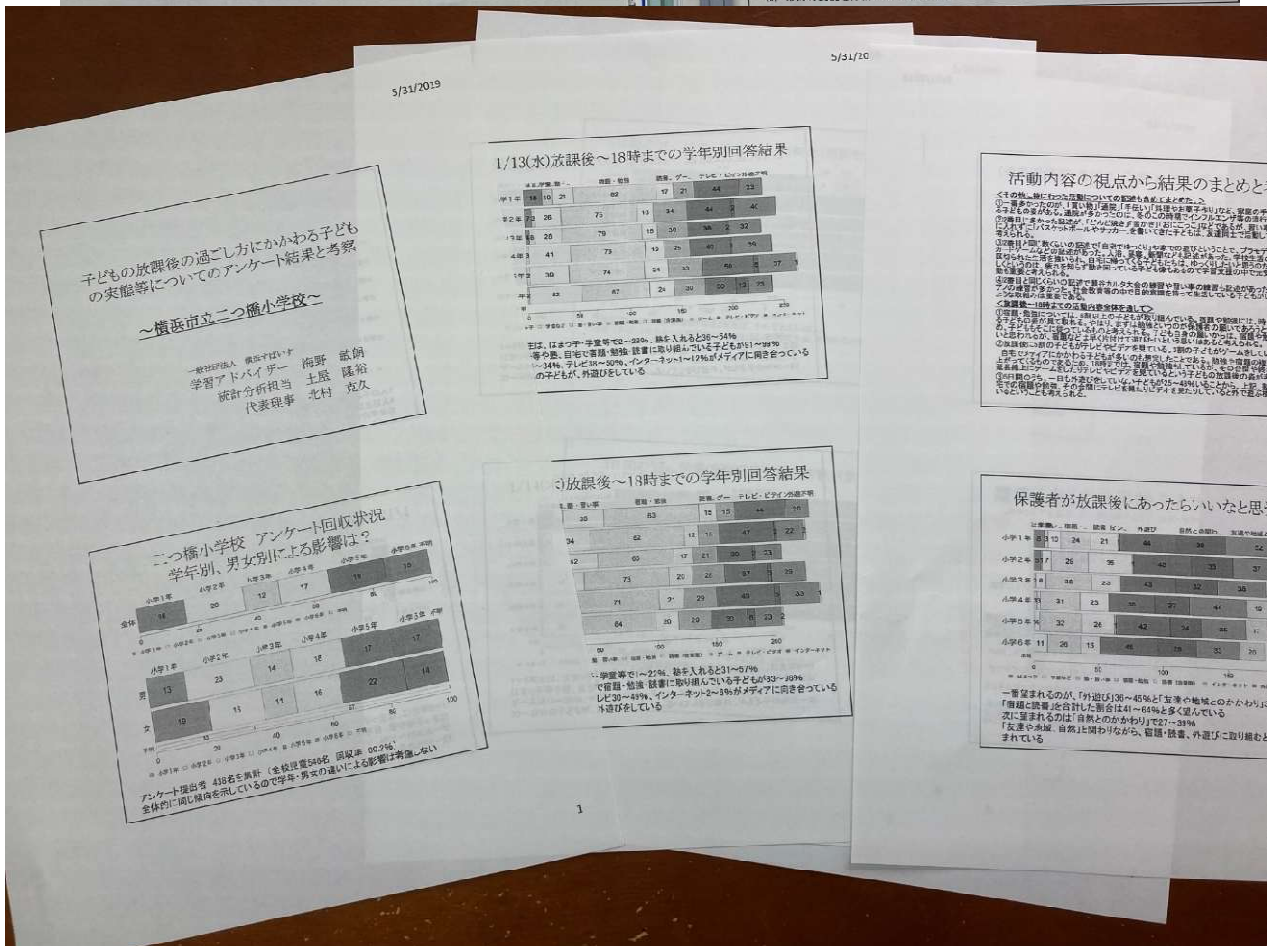
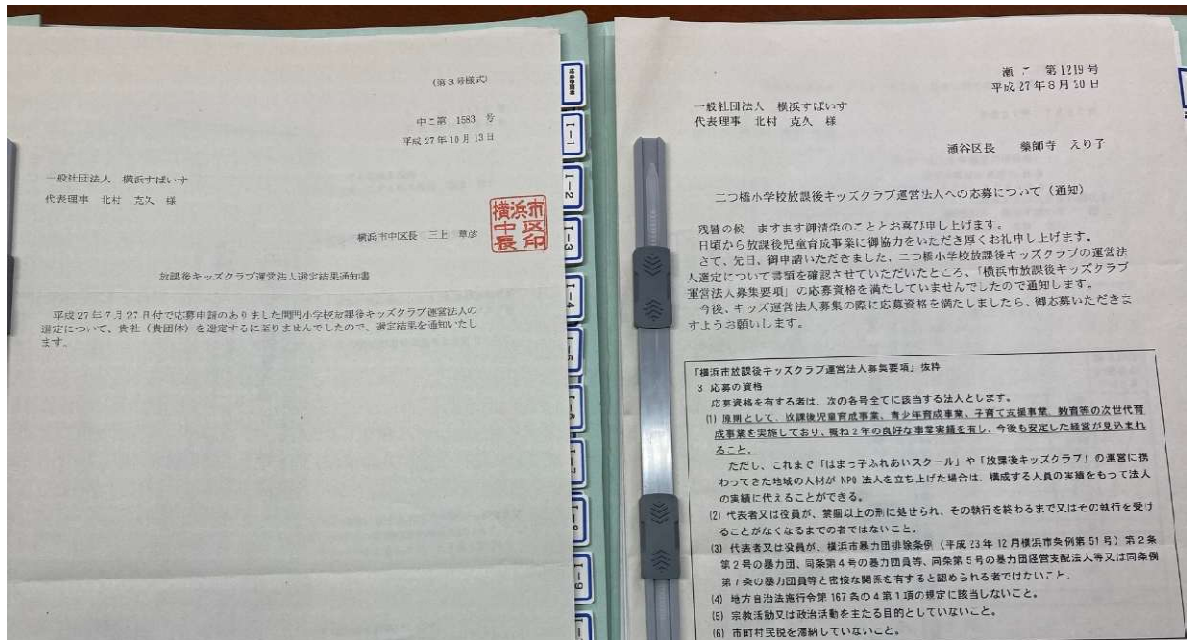
★キッズクラブの運営法人申請して、理想郷を着く路としたが、対象外!

★瀬谷区の子どもの課題(アンケート分析)を区役所と連携

・小学2年生「かけ算」学校との学習内容の支援の充実へ

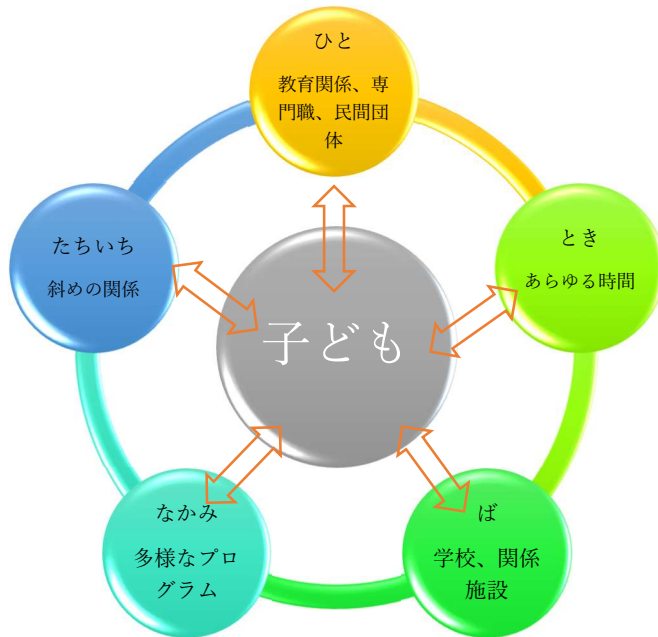
「学習意欲の向上」「学習習慣の定着」「コミュニケーション能力の向上」

・子どもを育成する力の明確化と学校教育への学習支援へ



2015(H27)年度 横浜すぱいす創設

★理想の放課後支援「つなぐ」を求めて法人の立ち上げ



・法人の強みを生かし「つなぐ」支援

- ・子ども、教師、大人の放課後を「つなぐ場」、学校教育、社会教育、生涯教育の充実へ
- ・支援プログラムの提供支援
- ・学習アドバイザーの教育経験を生かした支援
- ・斜めの関係による子どもの学習支援
- ・「できる人が、できるときに、できることを行う」支援
- ・支援による「WIN-WIN の関係」構築
(支援者も「生きがい」という価値を支援することで得られる。)

事務局プロジェクト

作成者: 北村 克久
期日: 平成27年2月7日

期日	社員	期日	メモ
2014/9/22	廣武・渡邊・鬼塚・北村	2014/9/22	放課後NPOアフタースクール組織氏・NPO法人SAN生業氏
2014/11/10	森川・國武・金澤他7名	2014/11/10	第1回社員総会(法人の立ち上げ)
2014/11/27	廣武・北村	2014/11/27	NPO法人教育支援協会 西田博孝氏
2014/12/2	廣武・北村	2014/12/2	株式会社キッズベースキャンプ島根氏
2014/12/4	北村	2014/12/4	鎌谷区役所地域振興課 金子課長
2014/12/19	高橋・北村	2014/12/19	高橋さんと婚活デザイン等打合せ
2014/12/20	土屋・北村	2014/12/20	杉並区教育委員会講演会「地域と共にある学校」
2014/12/23	北村	2014/12/23	吉田監事と打合せ「定款」「服務規則」「給与」等について
2015/1/7	廣武・北村	2015/1/7	定款申請に向けた書類作成打合せ
2015/1/12	北村	2015/1/12	NPO法人横浜教育フォーラム 藤原氏・倉澤氏
2015/1/15	森川・國武・北村	2015/1/15	第1回理事会
2015/1/20	北村	2015/1/20	吉田監事と打合せ企業協力等
2015/1/24	廣武・北村	2015/1/24	定款申請書類作成確認
2015/1/29	森川・國武・北村	2015/1/29	定款申請・第2回理事会

小学校放課後プロジェクト

作成者: 北村 克久
期日: 平成27年2月7日

期日	社員	期日	メモ
2014/9/11	金澤・北村	2014/9/11	中区はまっ子・キッズクラブ打合せ
2014/9/24	金澤・北村	2014/9/24	本牧南小学校キッズ主任、校長、大工さん打合せ
2014/9/28	金澤・北村	2014/9/28	大島小学校はまっ子クラブ、YSCC打合せ
2014/10/2	金澤・北村	2014/10/2	本牧小学校はまっ子クラブ、お嬢子指導者、校長打合せ
2014/10/16	北村	2014/10/16	子ども青少年局放課後部長、課長打合せ
2015/2/2	金澤・北村	2015/2/2	大島・本牧・間門・本牧南小学校放課後活動視察
2015/2/2	金澤・宮澤・北村	2015/2/2	2中4小校長27年度に向けた打合せ

中学校放課後プロジェクト

作成者: 北村 克久
期日: 平成27年2月7日

期日	社員	期日	メモ
2014/9/12	金澤・北村	2014/9/12	県立横浜緑ヶ丘高校校長打合せ
2014/9/19	金澤・北村	2014/9/19	大島中学校長打合せ
2014/10/16	北村	2014/10/16	子ども青少年局放課後部長、課長打合せ
2014/10/23	金澤・北村	2014/10/23	県立横浜立野高校校長打合せ
2014/10/29	金澤・北村	2014/10/29	本牧中学校、コミュニティセンター長打合せ
2014/10/30	金澤・北村	2014/10/30	大島中学校打ち合わせ校長、有元園大教授学生
2015/2/2	金澤・北村	2015/2/2	大島・本牧中学校放課後活動視察
2015/2/2	金澤・宮澤・北村	2015/2/2	2中4小校長27年度に向けた打合せ

横浜すぱいすの果たす役割

主体的要因

- 学校現場
- 子どもが多数出席
- ボランティアの不足
- 教える内容の高度化
- 学校種を超えた連携

環境的要因

- 家庭
- 説明責任の社会
- 少子化・人口減
- ネット情報社会
- 学校に依存する親

学校の課題

教育委員会事務局

- 指導主事の若返り
- 施設の利用化
- 予算不足
- 市費移管

社会的要因

- グローバル社会
- 世界中の社会問題一化
- 世界規模の競争激化
- 大学全入時代

学校・教育委員会事務局のみの努力だけでは対応が難しくなっている現実

■ 横浜すぱいすのめざすもの
スタート ⇒ 「すきま」を埋め「つなぐ」プログラム
ゴール ⇒ それぞれの「自立」

- I 子どもに線を引きつなげる
- II 教師に線を引きつなげる
- III 保護者に線を引きつなげる
- IV 学校に線を引きつなげる
- V 「財」と「人」に線を引きつなげる

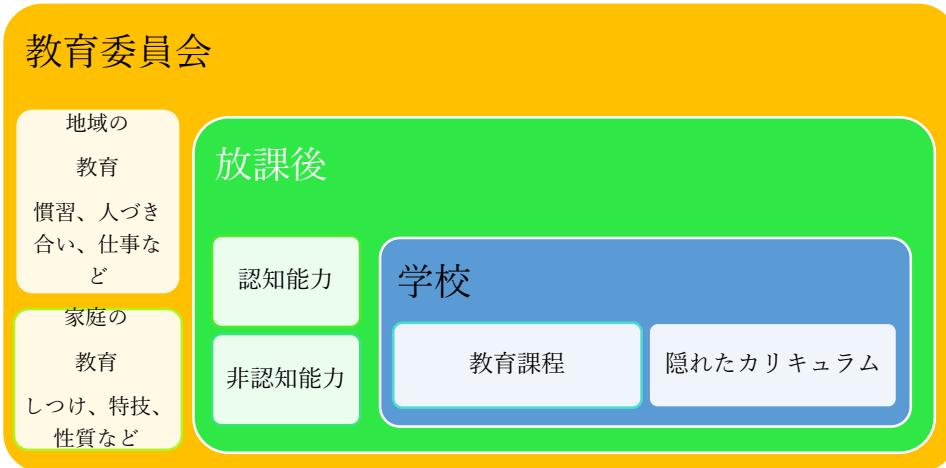
- 1 児童生徒の放課後支援
- 2 教師の放課後支援
- 3 家庭の支援
- 4 外国籍の生活・学習支援
- 5 企業連携、学校ファンドの支援
- 6 大学連携支援(ボランティア窓口)
- 7 調査統計分析等研究支援

EBE(Evidence-Based-Education)の推進

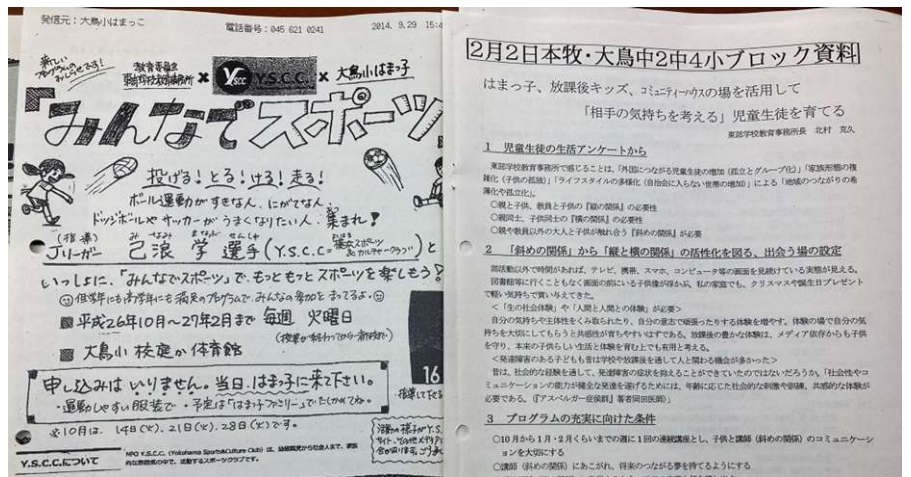
平成27年

2014(H26)年度 東部学校教育事務所からの発信と実施

★子どもの放課後をプログラムする



- ・教育委員会のリーダーシップによる学校教育へのつなぎ
- ・子どもの学校と家庭の隙間に入り、斜めの関係による子どもとの関わり
- ・放課後の居場所づくりのため、小中ブロックでの放課後支援プログラムの実施



横浜市記者発表資料 平成26年12月16日
教育委員会事務局 東部学校教育事務所指導主事室

放課後、大島中・本牧中で 高校生・大学生が中学生の学習を支援します！

11月から2月までの週1回、放課後に、学校やコミュニティスクールで中学生が学習する場を設けました。横浜緑ヶ丘高校・横浜国立大学教育人間科学部の協力により、高校生・大学生が中学生の学習を支援し、学生がわからないところを質問しながら学習を進めています。

☆学習支援の目的
最近、生徒たちのIT依存等による人間関係の希薄化が見られます。この学習の場では、学習だけでなく中学生がさまざまな人と関わるコミュニケーションを大切にしています。支援者である高校生・大学生、地域のおともこの趣旨を理解し、中学生に役立っています。このプログラムにより、中学生が高校生・大学生に憧れ、将来の夢を持ったり、1対1のコミュニケーションを通じて、相手の気持ちを考えられるようになったりすることを期待します。

大島中学校放課後学習支援	本校中学校放課後学習支援
<p>「ふれあい学習会」</p> <p><場所> 大島中学校1階ふれあいコーナー <日程> 原則第1回90分程度 日程は決まり次第、参加者に通知</p> <p><支援者> 横浜国立大学教育人間科学部</p>	<p>「本牧塾」</p> <p><場所> 本校中学校コミュニティハウス <日程> 平成26年11月～2月 原則休曜日 14:30～17:00</p> <p><支援者> 黒立横浜緑ヶ丘高校生徒地域関係者</p>

※取材される場合は、事前に東部学校教育事務所指導主事室にご連絡をお願いします。
お問い合わせ先
教育委員会事務局東部学校教育事務所指導主事室 室長 本田 正道 Tel 045-411-0607

たいく 大工さんが やってくる!

本物の大工さんがおしえてくれる！
おうちのお迷子さんってなんだろう？ お家ってどうやってできるの？
みんなも作ったことのある、あの道具の名前のヒミツも教えちゃうよ！
放課後のキッズクラブと一緒に学ぼう！

この方 後藤祐輔さん 平成26年度 横浜市優秀技能者委員 (特) 専修学校 東洋大学 建築学部

指導 後藤祐輔さん

この講座は無料の連絡講座です。
詳細は裏面をご覧ください。

第1回	11/12	大工さんがやってくる！～おうちの右屋さん～
第2回	11/28	おうちの壁紙の秘密！～とんかち編～
第3回	12/5	キッズクラブのすいすいっ！～のこぎり編～
第4回	12/17	ツルツルお家のキレイ屋さん！～かんざし編～
第5回	1/14	お家のしんじょう！～切って、貼って、トントントン！～
第6回	1/28	お家のしんじょう！～切って、貼って、トントントン！～
第7回	2/4	お家のしんじょう！～切って、貼って、トントントン！～
第8回	2/18	つくるぞ！壁紙の壁紙！～小作り7選講座～
第9回	2/25	つくるぞ！壁紙の壁紙！～小作り7選講座～
最終回	3/25	開店！本牧木工店！！木工教室

毎日の生活の流れ

10月10日から11月2月くらいまでの週1回の連絡講座とし、子供と講師(斜めの関係)のコミュニケーションを大切にします。

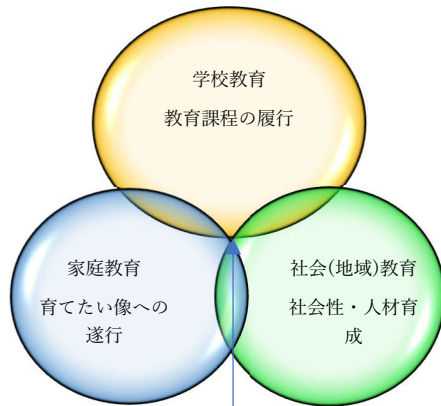
講師(斜めの関係)にあこがれ、将来のつながる夢を持ってもらう。
①放課後の「斜めの関係」に発着するよう、地元卒業生を招き出す

4:30 ~ 15:00	15:45 ~ 16:00
まっ子 準備	継続プログラム
キッズ集合	おしゃべり 45分
	おしゃべり 次回行合せ

2013(H25) 年度 西部学校教育事務所からの発信

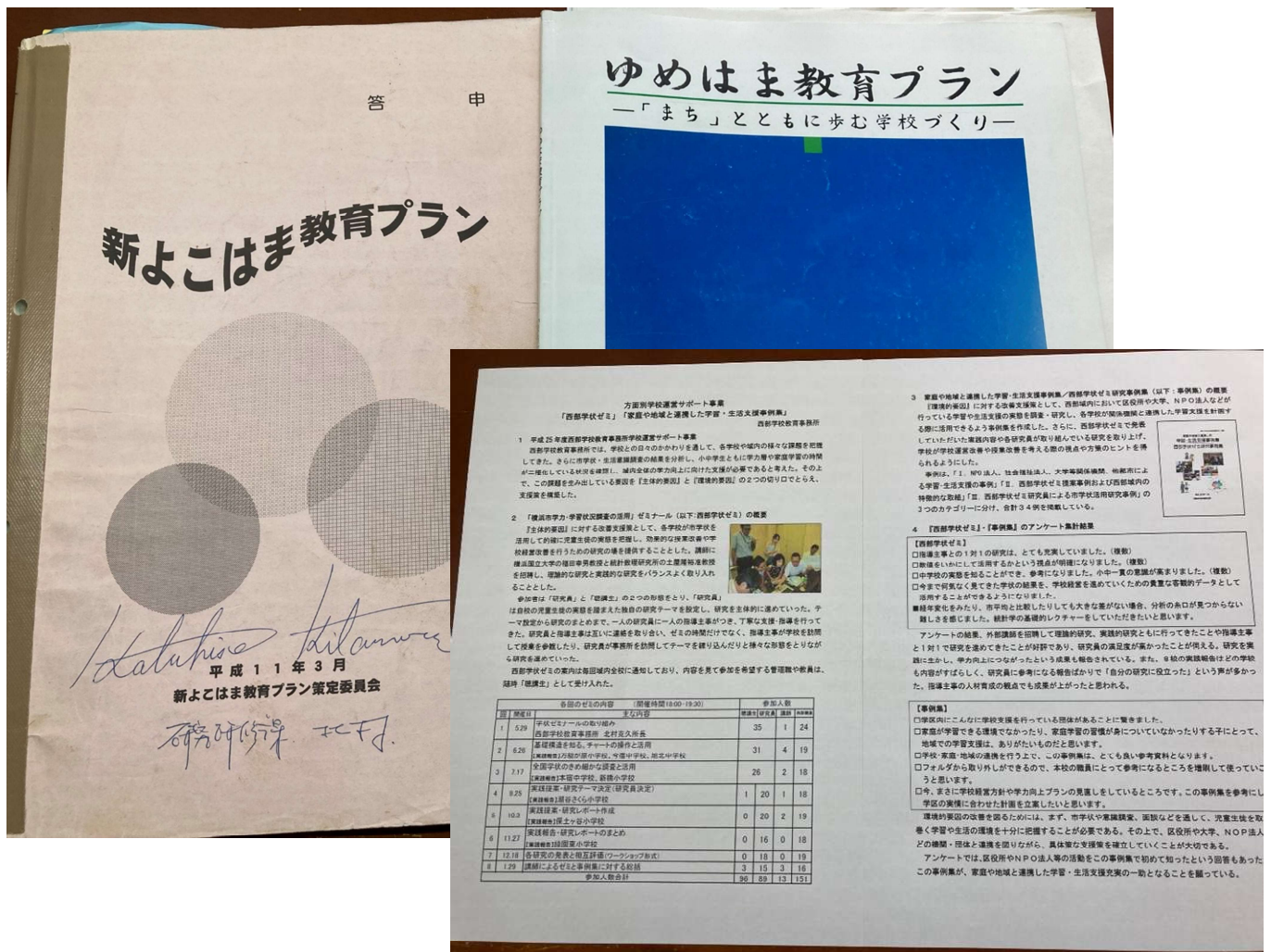
★学校が知らない「放課後支援」を知る

原点は新プランの生き方の教育！『生き方に学び』『生き方を見つめ』『生き方を創る』
子どもも大人も「夢を語る」生き方を！



・学校・家庭・地域で「認知能力」と「非認知能力」を醸成したい。

・子どもの地域と学校との関係、地域の大人と子どもとの関わり、防災、防犯の取り組みなど学校、地域、家庭のそれぞれの頑張りをつなぐ



新よこはま教育プラン

Katsumi Titamura
平成11年3月
新よこはま教育プラン策定委員会
事務局長 藤村 正典

ゆめはま教育プラン

—「まち」とともに歩む学校づくり—

3 家庭や地域と連携した学習・生活支援事業/西部学芸員研究事例 (以下、事例) の概要
『主体的参加』に対する改善策として、西部域内において区役所や大学、NPOの協力を得て
行っている学習や生活支援の実態を調査・研究し、各学校が知覚領域と連携した学習支援を計画す
る際に活用できるような事例集を作成した。さらに、西部学芸員と連携して、西部学芸員と連携
していただいた実践内容や各研究員が取り組んでいる研究を取り上げ、
学校が学校運営改善や授業改善を考える際の視点や方策のヒントを得
られるようにした。

事例は、「1」 町内法人、社会福祉法人、大学等関係機関、他職による
学習・生活支援の事例、「2」 西部学芸員と連携した事例および西部域内の
特徴的な取組、「3」 西部学芸員による西部学芸員による西部学芸員研究事例の
3つのカテゴリーに分け、合計34例を掲載している。

4 『西部学芸員と連携した事例集』のアンケート集計結果

【西部学芸員と連携した事例集】のアンケート結果は、とても良かった。 (複数)
アンケートを通じて活用する機会が増えたと感じた。 (複数)
アンケートの実績を参考にしたい。 (複数)
アンケートの結果を参考にしたい。 (複数)
アンケートの結果を参考にしたい。 (複数)
アンケートの結果を参考にしたい。 (複数)

アンケートの結果、外部講師を招請して理論的研究、実践的研究ともに進めてきたことや指導主事
と1対1で研究を進めてきたことが好評であり、研究員の満足度が上がったことが見える。研究を
実践に生かす、学力向上につながったという成果も報告されている。また、8校の実践報告はどの学校
も内容がすばらしく、研究員に参考になる報告ばかりで「自分の研究に役立つ」という声が多かった。
指導主事や人事管理の観点でも効果が上がったと思われる。

【事例集】
西部域内20校に学校支援を行っている団体があることに驚きました。
西部域で学習できる環境でなかったり、家庭学習の習慣が身につけなかったりする子にとって、
地域での学習支援は、ありがたいものだと思います。
西部学芸員が家庭・地域の連携を促すことで、各校の職員は、とても良い参考資料となります。
アンケートから取り外しができるので、本校の職員にとって参考になることを確認して使ってい
たいと思います。
アンケート、さらに学校経営方針や学力向上プランの見直しをしているところですので、この事例集を参考にし
て学芸員の連携に自分たちの計画を立案したいと考えています。
連携した実践の改善や発展のために、まず、西部域内や西部域外、道県などを通じて、児童生徒を取
組む学習や生活の環境を十分に把握することが必要である。その上で、区役所や大学、NPO法人
との連携・関係と連携を促すことが、具体的な支援を確立していくことにつながる。
アンケートだけでなく、区役所やNPO法人等の活動を知ることが大切だということも報告もあつた
この事例集が、家庭や地域と連携した学習・生活支援事業の一助となることを願っている。

題名	実施日	参加人数	参加校数
1	5/29	25	14
2	6/20	31	19
3	7/17	26	18
4	8/25	1	18
5	10/3	0	19
6	11/27	0	18
7	12/18	0	18
8	1/29	3	18
参加人数合計		96	151